

情報センター 小崎 誠二 研究部員



今とこれからの教育の質の向上を 教育DXと教員育成から考える



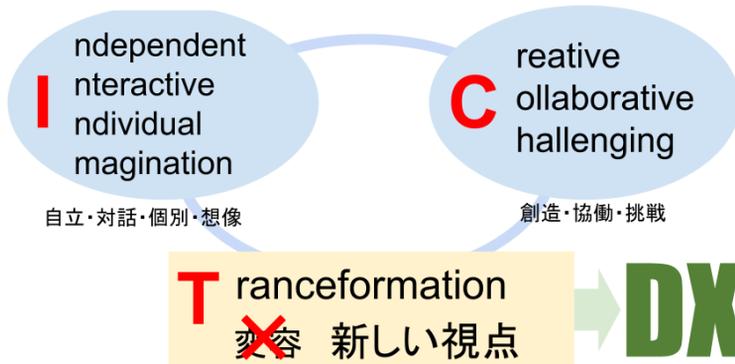
キーワード 教育DX/ 教員育成/ 地域・産官学連携/ 教育の情報化/ 国語科教育

どのような研究をなぜ行っているか

私たちは、日常生活の中で、情報という言葉が頻繁に見聞きするようになりました。ただ、多くの人は情報という言葉は何となく使っているものの、明確に説明することができる人はあまりいないのではないのでしょうか。情報とは、ひとことで言うならば、人が生きていくためには必要としているもの、です。

私たち人間が情報をやりとりするときに、最も頻繁に利用しているのが「ことば」。コンピュータが情報をやりとりするときに、最も頻繁に利用しているのが「デジタル化されたデータ」。私は、この両面から、教育の視点で、人がよりよく生きるためにどうすればいいのか、を研究しています。

new normal education ICT



人間がもつ五感は「情報」を得るためにある



Seiji KOZAKI @Nara University of Education School of Professional Development in Education © 2022 Education DX Lab.

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

学校教育で扱われているデータのデジタル化を推進し、クラウドを活用することなどで、指導者も学習者も多くの学ぶ場を手に入れ、その環境を生かして教育の質の向上を図るために、「校務データ」「学習データ」を合わせた「公教育データ」とは何かを整理しています。そこから、データを、学校教育や日常生活の中のどのような場面でどう活用すれば学校教育の質の向上に資するのかという効用を示すことが現在の主な研究テーマです。

現在は、紙ベースのアナログで扱われている各種の学習データがありますが、どのようにデジタル化することが望ましいのか、またデジタル化することで何が見えるのか、見えたものをどのように活用することができるのかを明らかにし、教育の質の向上に貢献したいと考えています。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

Google社 教育データの利活用に関する共同プロジェクト (2022～)、Softbank社 クラウド動画コンテンツに関する共同プロジェクト (2022～)、Amazon社 デジタルコンテンツの利用に関する共同研究 (2020～)、Epson社 カラーの効用に関する共同研究 (2022～)、モリサワ社 UDフォンの効用に関する共同研究 (2018～) や、文部科学省「教育データの利活用に関する有識者会議委員」「ICT活用教育アドバイザー」として、教育委員会、地域、保護者、学校と実践研究を行っています。

